

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C141	C540	17-305	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名(原題/訳)</b>			
Liver Injury and Endotoxemia in Male and Female Alcohol-Dependent Individuals Admitted to an Alcohol Treatment Program. アルコール治療プログラムで入院した男性および女性のアルコール依存症患者の肝障害とエンドトキシン血症			
<b>執筆者</b>			
Nass F <sup>1</sup> , Schneider B <sup>2</sup> , Wilm S <sup>3</sup> , Kardel B <sup>4</sup> , Gabor E <sup>5</sup> , Merges F <sup>5</sup> , Kroll M <sup>6</sup> .			
<b>掲載誌</b>			
Drug Res (Stuttg). 2017 Apr;67(4):204-210.			
<b>キーワード</b>			PMID:
エンドトキシン、肝臓病、アルコール使用障害			28142160
<b>背景</b>			
<p>肝臓、腸と免疫系の間相互作用は、アルコール性肝臓疾患 (ALD) の重要な構成要素である。本研究の目的は、入院しその後断酒している間のアルコール誘発肝臓傷害、エンドトキシン血症と炎症の間の関係を調査することであり、ならびにアルコール治療プログラムで入院するアルコール依存症患者のパラメータの男女差を調べることである。</p>			
<b>方法</b>			
<p>アルコール使用障害以外には健常でアルコール性肝障害の臨床徴候のないアルコール解毒プログラムのために入院する 48 人の患者をコホート調査し、ベースライン血漿アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT) レベル (肝障害の標識として) に基づいて 2 つの群に分けた。グループ 1 (ALT &lt; 40U/l、男性 7 人/女性 8 人) とグループ 2 (ALT 40U/l 以上、男性 27 人/女性 6 人) とした。肝障害、エンドトキシン血症と炎症の血漿生物マーカーは、入院時のベースライン、入院後 8 日と 15 日で調べた。飲酒歴も評価した。</p>			
<b>結果</b>			
<p>患者の 69 パーセントは入院時に ALT とアスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST) とサイトケラチン 18 (CK18 M65 と CK M30) を含む肝障害の他の標識が上昇しており。軽度の ALD の存在を示した。CK18 M65/M30 の比率が高いことは、これらの患者で観察される肝臓損傷がアポトーシスであるというよりはむしろ壊死性の肝細胞死がより大きく貢献していることを示唆した。</p> <p>女性は男性と比較して 1 日飲酒量と生涯の暴飲日が少ないにもかかわらず肝臓の損傷度はより大きかった。肝臓の損傷は全身性炎症と関連し、特に血漿腫瘍壊死因子 <math>\alpha</math> (TNF <math>\alpha</math>) レベルを上昇させた。肝障害のない患者と比較して軽度の ALD 患者ではより強いエンドトキシン血症 (血清リポ多糖類 LPS レベルの増加) を呈し、断酒により LPS は低下し、その減少は CK18 M65 の低下より先行した。</p>			
<b>結論:</b>			
<p>本研究は、アルコール解毒プログラムのために入院した患者のサブセットで軽度のアルコール誘発肝障害とエンドトキシン血症 (両者は 2 週の断酒で改善された) の関連を実証した。</p>			